

## 会 議 議 事 録

1 会議名	平成30年度 第1回長岡市環境審議会
2 開催日時	平成30年10月23日（火曜日） 午前10時00分から午前11時00分まで
3 開催場所	長岡市寿クリーンセンター2階会議室
4 出席者名	(委員) 解良会長 大原副会長 小林委員 西俣委員 龍池委員 田村委員 中山委員 横山委員 坂本委員 平澤委員 猪俣委員 若井委員 (事務局) 若月環境部長 野口環境部次長 宮島環境政策課長 小林環境業務課長 山口環境政策課長補佐 太刀川環境政策課係長 長谷川環境政策課係長 鷺頭環境政策課主任
5 欠席者名	宮腰委員、湯澤委員、丸山委員
6 議題	「平成30年版 環境に関する年次報告書（案）」について
7 審議結果の概要	審議会では出た意見等を盛り込みながら、今後も環境基本計画に基づく様々な施策に取り組むこととする。

8 審議の内容	
事務局	平成30年度 第1回長岡市環境審議会を開催します。 初めに、若月環境部長からごあいさつ申し上げます。
事務局	(あいさつ)
事務局	(会議資料の確認、欠席報告について) それでは議事に移らせていただきます。 議事進行を会長よりお願いいたします。
会長	それでは、議題に入ります。議題の平成30年版 環境に関する年次報告書(案)について、事務局から説明をお願いします。
事務局	(年次報告書について、資料により説明)
会長	ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありませんか。
委員	概要版1ページ目「地球温暖化対策」①の長岡市域における温室効果ガス排出量について聞きたい。直近の排出量が基準年の排出量を下回った要因として、電力使用に係るCO <sub>2</sub> 排出係数が下がったためとなっているが、この説明で正しいのか。他にも要因はあるか。
事務局	国の法律に基づき、電力事業者が算出するCO <sub>2</sub> 排出係数を使って排出量を計算しているが、近年この排出係数は下降傾向であることから、市域のCO <sub>2</sub> 排出量が減ってきていることは事実である。 その他の要因としては、産業界の省エネ努力により、産業界全体で使用するエネルギー量がかなり減ってきたことがあげられる。一方で、家庭での使用量は若干増加している状況であるが、全体としてはCO <sub>2</sub> 排出量は減ってきている。
委員	排出係数が下がったことが要因だと記載してあると省エネ努力が伝わらないため、その点についても記載したほうが良いのではないか。
委員	年次報告書の6ページに、温暖化対策としてノーマイカーデーの実施状況について記載されているが、実施率が低いのではないか。一地方都市としては平均的な実施率なのか。一市民でも実施しやすい取組であるため、実施率を上げていけたら良いと思う。
事務局	実施状況は10%に満たない状況であり、このような結果がここ近年続いているのが現状である。 長岡市は地方都市であり、支所地域をはじめ、車以外の交通手段を選択する余地が無い地域もある。市役所においても、アオーレ長岡はバスや電車といった手段があるが、支所などはなかなか他の交通手段がない庁舎もある。私どもも市の交通政策課と連携して市内の事業所にお声掛けしているが、なかなか実施率は上がらない状況である。

<p>委員</p>	<p>今年度は越後交通様に協賛いただきバスの回数券を賞品として提供していただいた。今後も市民の皆様インセンティブを与えながら実施率を上げていきたいと考えている。今後の課題とさせていただきたい。</p> <p>先日、ノーマイカーデー推進協議会が行われ、実施率はこのように推移してきているが、来年度以降については見直しを行う予定だと聞いている。バスの運行についてはコースや本数を増やせば1番良いが、民間企業のため収支をみながら、バスダイヤの確保等前向きに検討する。</p>
<p>会長</p>	<p>概要版1ページ目にある温室効果ガス排出量の表についてだが、温室効果ガス排出量の間目標の「▲26.5%」は実現可能か。また、実際は何%くらい達成できると考えているか。</p>
<p>事務局</p>	<p>この「▲26.5%」は国が定めた目標値に基づき、定めたものである。現在国の審議会等でも議論されているところではあるが、市民一人ひとりが▲26.5%を達成しなければならないというわけではない。例えば、電力事業者が火力発電のエネルギー源を別のエネルギー源へ転換することで、排出量を大幅に減らし、削減を目指すなどと議論されている。</p> <p>排出量の四分の一を削減するというのは、大変大きな目標ではあるが、国も多様な施策を議論しているところであり、市としても頑張っ取り組んでいきたいと考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>風力発電・太陽光発電に対する電力の買取価格の再見直しの議論が始まったが、それに伴い、再生可能エネルギーの普及が進まなくなってしまう問題が指摘されている。その対策はしているか。</p>
<p>事務局</p>	<p>経済産業省を中心にFITの買取価格の審議がなされているところである。太陽光発電は設備価格の低減化に伴い買取価格が低くなってきているが、風力発電やバイオマス発電による電力の買取価格は、太陽光発電に比べて優遇されている状況であり、今後、それぞれの設備の普及度合をみながら判断していくと議論されている。</p> <p>長岡市としては、以前、「長岡市新エネルギービジョン」を策定し、温暖化防止の観点からも新エネルギーの推進を図っていくとしている。その中で長岡市で一番有効なものとして太陽光発電、また、本市は天然ガスの一大産地であることから、天然ガスによる燃料電池設備の導入等を促進することを目的に、現在はこれらの設備への補助金制度を実施している。今後もなんらかの手段で新エネルギー設備を普及・促進するため、支援していきたいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>年次報告書の8ページ「(オ) BDF (バイオディーゼル) 燃料製造</p>

	<p>の促進」の中で「ながおか菜の花プロジェクトを推進しています。」という文言や、「長岡市BDF生産者協議会」について記載されているが、協議会については既に解散したと思っていた。また、菜の花プロジェクトに関しては、以前菜の花を栽培していた場所ではほとんど栽培されていない状況であり、本当に推進しているのか疑問に感じた。担当課に現在の状況について確認してほしい。</p>
<p>事務局 委員</p>	<p>関係課に確認する。</p> <p>年次報告書8ページの「(カ) 住宅用太陽光発電システムの設置補助」についてだが、温室効果ガスの削減と市民の環境配慮に対する喚起等を目的に、「長岡市省エネルギー設備等設置事業補助金」により補助を行っているとのあるが、今年度の状況について説明してほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>今年度の予算は5,400万円で4月中旬から申請の受付を始めた。秋口からペレットストーブ等の2次募集を予定していたが、予算の残額が多かったため、2次募集は行わず、継続して全設備の申請を受け付けている。</p>
<p>委員</p>	<p>申請件数は、平成29年度末で480件、今年度は8月末時点で250件程度となっている。予算は1,000万円以上残っているため、委員の皆様からもお知り合いの方などにご紹介いただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>年次報告書8ページ「(ク) 間伐材などの木質バイオマス利用」にも長岡市省エネルギー設備等設置事業補助金について記載があるが、補助金の予算が残っているのは、設備の導入が減ってきていることによるものだと思う。ペレットなど燃料の購入費が灯油や電気などに比べて高いようだと、導入に二の足を踏んでしまうため、木質バイオマス燃料等に対する補助があると、より普及が進むのではないかと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>設備の使用頻度によりランニングコストは大変ばらつきがあるため燃料に対する補助は困難である。その分も設備購入時に補助しているのご理解いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>年次報告書8ページに「(オ) BDF (バイオディーゼル) 燃料製造の促進」とあるが、廃食用油回収の普及が進んできているが、状況はどうか。回収の状況を市民へお知らせしてはどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>廃食用油の回収場所は、従来、公民館や各支所などの公共機関や拠点回収に限っていたが、平成29年度からアピタ長岡店などの商業施設やトモシア、阪之上コミュニティセンター等、回収場所を増加した。回収量は横ばいである。また、回収状況については、年2回発行されるごみ情報誌にて公表している。資源回収の取り組みの成果として、これからも市民の皆さんに広報していきたいと考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>年次報告書8ページ(オ)の見出しのBDF(バイオディーゼル)</p>

<p>事務局 委員</p>	<p>と本文中のBDF（バイオディーゼルフェューエル）の表記が異なる。バイオディーゼルフェューエルに揃えてほしい。</p> <p>ご指摘のとおり修正する。</p> <p>概要版の2ページ以降の資料やグラフが年次報告書に掲載されるのか。微小粒子状物質の年平均値の推移のグラフについてだが、年次報告書27ページのグラフは文字がつぶれているため、概要版3ページのグラフに修正してほしい。</p>
<p>事務局 副会長</p>	<p>ご指摘のとおり修正する。</p> <p>概要版8ページに、リバーサイド千秋アピタ長岡店で「エコ博」を実施したと記載されているが、来場者数はどのくらいか。</p>
<p>事務局</p>	<p>毎年、長岡市、新潟県環境保全事業団、アピタ長岡店など様々な事業者とタイアップして環境啓発を行っている。</p> <p>昨年度は9月9日（土）、10日（日）にイベントを行い、来場者数は800人だった。</p>
<p>委員</p>	<p>年次報告書58ページ「ウ 農村環境計画の推進」についてだが、平成21年3月に今後の農業農村整備事業等実施の際の基本構想となる「長岡市農村環境計画」を策定したと表記があるが、この10年の進捗状況はいかがか。</p> <p>現在、農業従事者の高齢化や離農が進んでいる。環境と農業が連動し、短いスパンで事業の実施計画を検討するべきであり、農業に携わる者としては環境保全には大きな責任があると感じている。関係各課で連携し、現状に即した対応をお願いしたい。</p> <p>また、57ページ「ア 農地転用制度の適正運用」についてだが、「農地転用に対する申請は、農地法に基づき、適正に審査をしています。」と表記されているが、何をやっているのかこれだけでは分からないため、もう少し具体的な内容を記載してほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>57ページの農地転用に関しては、農業委員会と調整し、「適正に審査」の表現を工夫できるか検討する。</p> <p>58ページの長岡市農村環境計画についてだが、一般的に計画期間や社会情勢の変化に合わせて、計画は見直すものであると考えている。委員の意見は農林水産部に伝えたい。</p>
<p>会長</p>	<p>概要版8ページ「環境啓発・教育の推進」の④、小学生を対象にした「地球温暖化対策講座」についてだが、市内の小学校数に対して、昨年度は6校で実施したというのは少ないのではないのか。市内全ての小学校を巡るにはどれくらいかかるか。</p>
<p>委員</p>	<p>長岡市内には市立小学校が55校あるため、全ての小学校で実施するには10年程度かかる。興味がある学校が総合的な学習等の計画に入れ</p>

事務局	<p>て、継続的に行っているのではないかと思う。現在、学校現場は多様な要素が増えているが、授業数は増えていないため、ある特定の学年で網羅して取り組むのは難しい。</p> <p>授業の一環として扱っていただけるよう、教育委員会を通じて各小学校に希望調査をし、学校側と調整しながら実施しているところである。我々としては、よりたくさんの学校から受講してもらいたいところではあるが、学校側の授業や行事の都合と調整して実施している状況である。</p> <p>平成28年度は4校、平成29年度は6校で実施と、多少増えている状況であり、これまで実施校の重複はない。これからも、多くの子どもたちに温暖化について学ぶ機会として続けていきたいと考えている。</p>
事務局	<p>「地球温暖化対策講座」は1つの啓発の方法ととらえている。小学4年生になると、市内の小学生は寿クリーンセンターの見学に来る。その際に趣旨的には同じ温暖化対策の話をしているため、市内の全ての小学生に温暖化防止の啓発をしている状況である。それぞれの学校で手段を選択して環境学習を進めていただきたいと考えている。</p>
会長	<p>年次報告書の中に小学校での講座やクリーンセンターの見学などの状況が一目でわかる表があると良いと思う。</p> <p>委員の皆様から出ました意見等、反映すべき点は反映して年次報告書の作成をお願いしたい。</p>
事務局	<p>これで本日の環境審議会の議事は終了する。</p> <p>会長、どうもありがとうございました。</p> <p>委員の皆様からいただいた貴重なご意見については、年次報告書に反映すべき点は修正し、作成させていただきたい。また、修正後は会長と事務局にて、最終的に確認させていただくことで、ご承知いただきたい。</p>
事務局	<p>続きまして、議題3 その他「エコ標語審査結果について」事務局からご報告させていただきます。</p>
事務局 事務局	<p>(資料No.4に基づき説明)</p> <p>それでは以上で、平成30年度第1回環境審議会を終了いたします。</p>
<p>9 会議資料 別添のとおり</p>	